

## 芸術の香りがする街づくり

これから福岡市は、西日本を代表する都市としてさらに発展していくと思います。単に経済中心の都市ではなく、バランスのとれた街づくりが望ましいと思います。

人々の感性を豊かにする芸術の香りがする街——身近に若手芸術家たちが気軽に発表できるサロン（50人くらい収容）が作られるといい。市民が、買い物のついでにお茶を飲みながら、リーズナブルな費用で音楽を聴いたり、絵画や彫刻を鑑賞したり、様々な芸術活動を楽しめるような場ができればいいと思う。若い芸術家たちの成長の過程も見守れるし、彼らにとり励みにもなる。今、取り組んでいるところもあるが、時間や場所や費用などの制約もあり、十分でない。このようなサロンが街のあちこちに出来ると、外出の楽しみも増え、街のさらなる活性化にもつながる。街の雰囲気もぐっとよくなるだろうし、市民文化のレベルアップにもなると思います。

## 、高齢者や障害者に優しい街

先進国のなかで、日本はバリアフリーの取り組みがかなり遅れています。バスターミナルや地下鉄の駅などに、案内所を作り、ボランティアに常駐して貰います。街の様子がわからない人や、お店の情報が欲しい人や、1人で買い物するのが不安な人や、杖が必要な人には、必要な介助を提供したり、電動車椅子を貸し出すようにします。街に出たい人は沢山います。健常者と同じように皆買い物をしたり、イベントに参加したり、レストランで食事をしたりして、人生を楽しみたいのです。少しの手助けと熱意と実行力で、多くの人々の行動範囲が広がります。段差解消、トイレの問題、事故の対応などなどハード面での問題も沢山ありますが、弱者に対する人間らしい優しい心を育てる教育がこれから絶対に必要です。

## チャリンコ人からのお願い

天神界隈の買い物や、イベントなどはもっぱら、チャリンコを利用していますが、危険だらけです。人や車椅子や自転車通行のことを全く無視した作りの道路の段差は勿論、歩道の真ん中にでんとたっている電柱（九電さん、何とかしてください）、マンホールの蓋、道路にはみでた店の看板や商品（これは立派な道路交通法違反だと思うのだが）、などよけ

ながら、対向人とぶつからないようにハンドルをきり、猛スピードで飛ばしてくる若者たちの自転車に肝を冷やしつつ、また、歩道のないところでは、後ろの車に追突されないように気を配り、進んでいかねばならないのです。健常者にとってもバリアフリーの歩道は必要です。

道路管理者の方は、常に自転車で街を見回って欲しい。人間のための優しい道路作りをして欲しいと願っています。